

多様な文化財の修復技術に関する調査研究 (ホ06)

研究組織 建石徹、芳賀文絵、千葉毅、中村舞（以上、保存科学研究センター）、中山俊介（特任研究員）、刈田重賀（客員研究員）

目的 近年多発する災害によって被災した文化財、また、近代に製作された大型構造物や機械器具、工業製品などの文化財の保存修復処置は、その多様な材質、状態により、従来の方法のみでは対処できない可能性がある。本研究では、そのような多様な文化財に対する保存修復技術に関する新しい材料や技法について情報収集、調査及び開発を行う。これらの研究を通して、多様な文化財の保存手法・保存活用、防災計画のあり方等を明らかにすることを目指している。

成果

- 被災文化財の保存修復技術に関する調査・研究
 - 東日本大震災における被災資料保管環境管理について、宮城県の事例をもとに、収蔵環境と保管資料との状態について調査を行い、それらの結果について報告し、一般室等の一時保管収蔵庫としての活用についての調査研究を行った。
 - 被災資料の応急処置方法の検証として、真空凍結乾燥機をはじめとした、水損紙資料の乾燥処置の処置回数及び乾燥温度による資料への影響の検証結果について報告を行った。
 - 災害時を想定した博物館収蔵資料の搬出訓練について、神奈川県立歴史博物館での取り組みを対象に成果と課題をまとめ報告した。
- 近代文化遺産の保存修復技術に関する調査・研究
 - 内部造作の保存と修復に係る研究成果をまとめた『Conservation and Restoration of Internal Features』を刊行した。
 - 近代文化遺産の活用に関する調査を行い、各地の特徴ある活用を実施している国指定文化財を中心とした文化財の現地調査を実施し、その研究成果を整理した。
 - 国登録文化財である旧陸軍知覧飛行場関連の建造物や市指定文化財である陸軍四式戦闘機「疾風（はやて）」をはじめとした近代の文化遺産について、南九州市と保存修復にかかる調査研究に関する覚書を締結した。その一環として、屋外に所在する南九州市指定

文化財等の SfM-MVS による記録調査の他、南九州市知覧特攻平和会館と協力し展示環境調査を実施した。

論文

- 芳賀文絵、建石徹：「真空凍結乾燥における乾湿繰り返しと乾燥温度による紙資料状態の変化について」『保存科学』62 pp.129-142 23.3
- 芳賀文絵、千葉毅、建石徹：「文化財防災と保存科学の接点と相互関係—修復技術研究室設置にあたって—」『保存科学』62 pp.163-178 23.3

発表

- 建石徹ほか：「日本における文化財防災センターの設立と活動の現状」韓国文化財保存科学会第56回大会 22.11.11-12
- 千葉毅ほか：「浸水を想定した博物館資料の緊急搬出訓練」韓国文化財保存科学会第56回大会 22.11.11-12
- 芳賀文絵ほか：「学校を利用した収蔵庫における資料と保存環境」韓国文化財保存科学会第56回大会 22.11.11-12

刊行物

- 『Conservation and Restoration of Internal Features』 22.7



文化財防火デー（法隆寺における防災訓練）



近代文化遺産の調査（SfM-MVSによる記録）